

理想の水田管理を、  
あなたに。



# ウィードコア™ 1キロ粒剤

Rinskor™ active

## 水稲用除草剤

- すばやい効果発現
- 4葉期のノビエと大きな広葉雑草に優れた効果
- ノビエ、SU抵抗性を含む広葉雑草、多年生雑草まで同時防除



技術資料

## はじめに

ウィードコア™1キロ粒剤は、新規有効成分フロルピラウキシフェンベンジル（商標名：リンズコア™）、高葉令の幅広い雑草種に効果を有するペノキススラム、ホタルイなどのSU抵抗性雑草に効果の高いベンゾビスクロンを含有する混合剤です。

日本では、2015年からDAH-1501 1キロ粒剤の試験コードで委託試験を実施しており、2020年5月13日に登録認可されました。

ウィードコア™1キロ粒剤が日本全国の様々な水田の雑草防除でその力を発揮し、より効率的な稲作経営に貢献できるよう願っております。

■農林水産省登録 第24389号

除草剤分類 4, 2, 27

■商品名：ウィードコア1キロ粒剤

■有効成分：フロルピラウキシフェンベンジル（通称リンズコア）・・・0.40%

ペノキススラム・・・0.50%

ベンゾビスクロン・・・2.0%

■物理的・化学的性状：類白色細粒

■規格：1kg×12袋



## ウィードコア1キロ粒剤の特長

### ■すばやい効果発現

効果が早く現れるので、安心して他の作業に集中できます。

### ■4葉期のノビエと大きな広葉雑草に優れた効果

散布適期の幅が広く、生育の進んだ雑草\*を取りこぼしません。

### ■ノビエ、SU抵抗性を含む広葉雑草、多年生雑草まで同時防除

圃場ごとに発生する雑草がちがっても、この剤ひとつで防除できます。

※草種によって防除できる大きさは異なります。

## ウィードコア1キロ粒剤の殺草スペクトラム

3つの異なる成分の組合せが、あらゆる雑草種への効果を実現しました。

草種 有効成分	ノビエ	ホタルイ	コナギ/ ミズアオイ	アゼナ類	クサネム	イボクサ	オモダカ	クログワイ	シズイ
ウィードコア1キロ粒剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●
リンズコア	●	△	●	●	●	●	●	—	●
ペノキススラム	●	●	●	●	●	—	●	●	●
ベンゾビスクロン	△	●	△	△	△	○	△	△	△

●：非常に効果高い ○：効果あり △：効果やや低い —：ほとんど効果なし

## 有効成分リンズコア™の特長

米国ダウ・アグロサイエンス(現コルテバ・アグリサイエンス™)によって開発されたリンズコア™(一般名:フロルピラウキシフェンベンジル)は、新たな骨格を有する合成オーキシシド、ノビエ、広葉雑草、一部のカタクリグサ科雑草に高い効果を発揮します。本有効成分はオーキシシド類似の作用により除草効果を示しますが、既存の合成オーキシシドと異なる受容体に結合することが分かっています。このユニークな作用機構のため、従来のホルモン剤では効果が期待できなかったノビエに対しても高い活性を示し、既存除草剤に抵抗性を発達させた雑草に対しても、効果が期待できます。

- 幅広い雑草種に活性があり、ノビエ、コナギ、ミズアオイ、クサネム、イボクサなどに非常に高い効果を示します。
- ユニークな作用機構で、SU抵抗性広葉雑草にも効果を発揮します。
- 高葉令の雑草に対しても効果を示します。
- 効果発現が早く、処理後数日以内に症状を観察できます。
- 環境に影響が少なく危険性の低い化合物として米国環境庁(EPA)から評価されています。

【合成オーキシシドとは】植物を伸長させるオーキシシド(インドール酢酸)によく似せて人為的に合成した物質。植物のオーキシシド作用を乱して枯殺します。

## 名前の由来

水稲栽培を成功させる(スコア、score)有効成分であること、また稲に不可欠で主要な技術(コア、core)となることを願って考えられました。

「リンズコア™」は、ダウ・アグロサイエンス(現コルテバ・アグリサイエンス™)が開発した有効成分「フロルピラウキシフェンベンジル」の通称として、世界各国で使用している登録商標です。

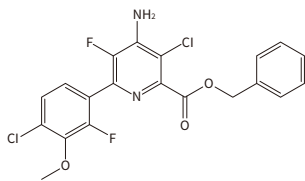
**Rinskor™**  
**active**



リンズコアの様々な情報はウェブサイトでもご覧いただけます

## 有効成分の名称と化学構造

一般名: フロルピラウキシフェンベンジル  
 ブランド名: リンズコア  
 分類: HRACグループ4, WSSA Class4  
 化学名: ベンジル=4-アミノ-3-クロロ-6-(4-クロロ-2-フルオロ-3-メトキシフェニル)-5-フルオロピリジン-2-カルボキシレート  
 構造式:



## 有効成分の安全性

### ・急性毒性

経口	ラット 雌	LD50	> 5000mg/kg
経皮	ラット 雄雌	LD50	> 5000mg/kg
吸入	ラット 雄雌	4h ダスト/噴霧	> 5.23mg/l

### ・生態毒性

魚類	ニジマス	LC50	> 0.0490mg/l (96h)
無脊椎動物	オオミジンコ	EC50	> 0.0623mg/l (48h)
藻類	緑藻	ErC50	> 0.0424mg/l (0-72h)

## 物理的・化学的性状

性状: 黄褐色粉末  
 融点: 137.1°C  
 蒸気圧: 3.2×10<sup>-5</sup> Pa at 20°C  
 水溶解度: 0.015mg/l 20°C

## 殺草スペクトラム

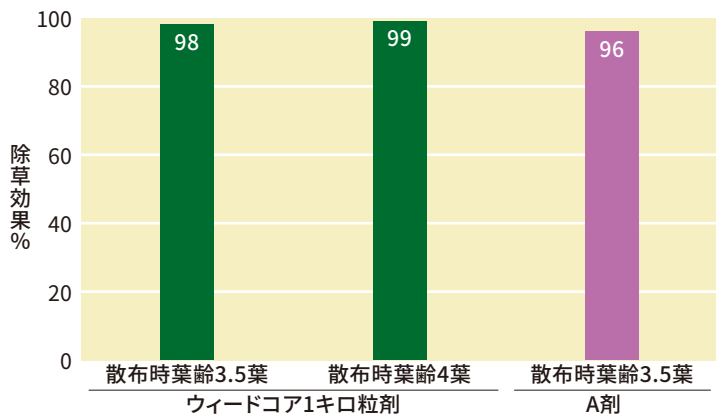
リンズコアは、水稲栽培で問題になる主要な雑草に効果を示します。

ノビエ	極大	ホタルイ	中～大
一年生カタクリグサ科	極大	ヘラオモダカ	極大
コナギ	極大	ミズガヤツリ	極大
クサネム	極大	ウリカワ	極大
イボクサ	極大	クログワイ	中
その他一年生広葉	極大	オモダカ	極大



## ノビエに対する効果

全国の様々な環境で発生するノビエは、水稻と競合する問題雑草です。ウィードコア1キロ粒剤は、4葉期までのノビエに高い除草効果を示します。



2015年 (公財)日本植物調節剤研究協会 上川  
 移植：5月20日  
 処理：3.5葉期は6月11日(移植22日後)、  
 4葉期は6月14日(移植25日後)に湛水散布  
 調査：7月17日(移植28日後)に生重を測定、  
 無処理区と比較し除草効果を算出  
 (無処理区は532.7g/m<sup>2</sup>、350本数/m<sup>2</sup>)

防除目安  
4葉期まで

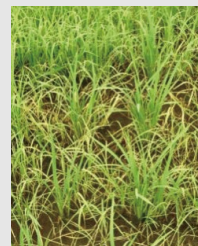


## 殺草経過事例

### ▼ウィードコア1キロ粒剤



散布前  
処理時葉令4.3葉

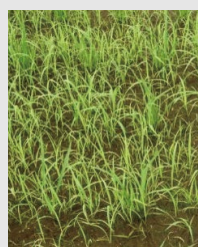


処理7日後



処理21日後

### ▼対照B剤



散布前



処理7日後

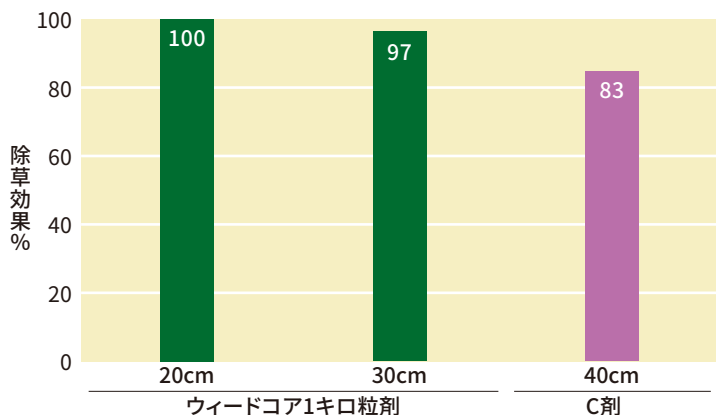


処理21日後

◎殺草経過事例の写真は、試験データとは異なる試験で撮影されたものです。

## オモダカに対する効果

矢じり形の葉をもつオモダカは、全国で発生する大型の多年生雑草で、塊茎で増殖し水稻と競合する問題雑草です。ウィードコア1キロ粒剤は、30cmまでのオモダカを防除します。



2015年 (公財)日本植物調節剤研究協会 奈良  
 移植：6月12日  
 処理：20cmは7月6日、30cmは7月19日、対照剤は7月31日に湛水散布  
 調査：8月27日(移植76日後)に残存したオモダカの個体数・草丈を測定し防除価を求めた。

防除目安  
約30cmまで



## 殺草経過事例



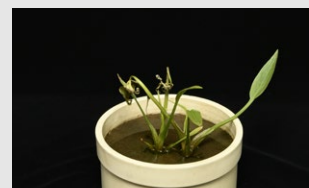
処理前



処理1日後



処理3日後



処理7日後



処理14日後

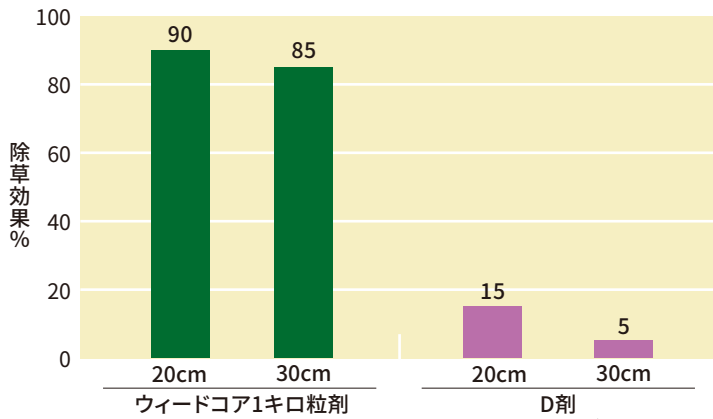


無処理

◎殺草経過事例の写真は、試験データとは異なる試験で撮影されたものです。

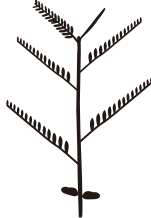
## クサネムに対する効果

マメ科一年生雑草のクサネムは、大きくなると収穫時の障害になったり、種子が糞に混入することがあります。ウィードコア1キロ粒剤は、30cmまでのクサネムに効果を示します。



2015年（公財）日本植物調節剤研究協会 茨城  
 移植：5月21日、5月28日にクサネム5個体/区を植え付け  
 処理：クサネム20cm区は6月16日、30cm区は6月24日に湛水散布  
 調査：7月21日（移植61日後）に残草量を調査  
 無処理区のクサネムは5個体681g/m<sup>2</sup>

**防除目安**  
約30cmまで



## 殺草経過事例



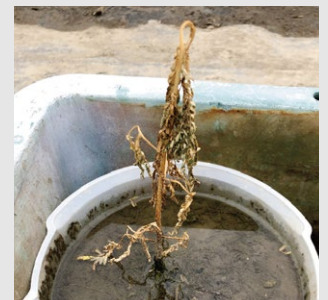
散布前  
処理時草丈20cm



処理3日後



処理6日後

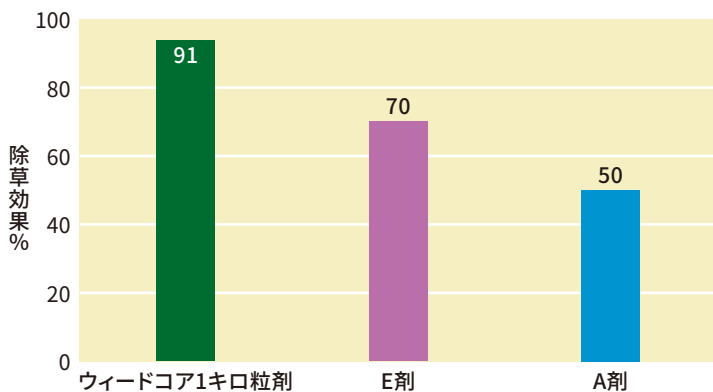


処理11日後

◎殺草経過事例の写真は、試験データとは異なる試験で撮影されたものです。

## イボクサに対する効果

ツククサ科一年生雑草のイボクサは、地表面を這うように成長し水田に広がります。ウィードコア1キロ粒剤は、40cmまでのイボクサに効果を示します。



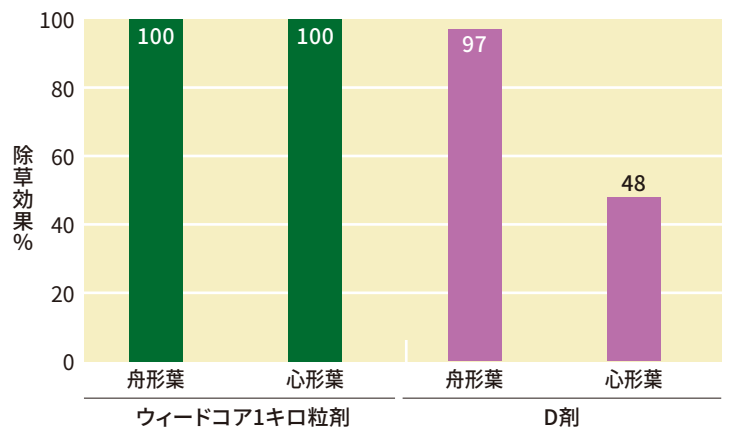
2019年（公財）日本植物調節剤研究協会 茨城  
 移植：5月16日に頂芽を含むイボクサ切片を5個体移植  
 処理：湛水散布（6月16日）  
 調査：7月13日（処理27日後）に乾物重を調査し除草効果を求めた。  
 無処理区のイボクサは5個体25.3g/m<sup>2</sup>

**防除目安**  
約40cmまで



## ミズアオイに対する効果

コナギと似たミズアオイも、SU剤抵抗性個体の発生が認められています。ウィードコア1キロ粒剤は、ミズアオイに対してもすばやく効果を示します。



2015年（公財）日本植物調節剤研究協会 北海道

**防除目安**

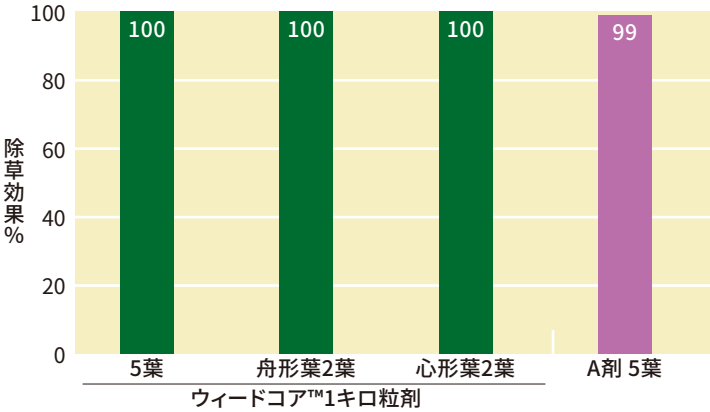
心形葉2葉期まで

移植：5月23日  
 処理：舟形葉は6月30日、心形葉は7月8日に湛水散布  
 調査：7月27日に残存する生草重を調査し除草効果を求めた。無処理区は512個体、2,489.6g/m<sup>2</sup>



## コナギに対する効果

ミズアオイ科一年生雑草のコナギは、発生量が多い代表的な水田雑草で、SU剤抵抗性個体の発生が認められています。ウィードコア1キロ粒剤は、ハート形の心形葉2葉を持つコナギにすばやく効果を示します。



2015年（公財）日本植物調節剤研究協会 茨城  
 雑草播種：7月9日  
 処理：コナギ5葉は7月28日（播種後19日）、舟形葉2葉は8月4日（播種後26日）、心形葉2葉は8月7日（播種後29日）に散布  
 調査：コナギ5葉は処理後20日と42日、舟形葉2葉は処理後18日と40日、心形葉2葉は処理後19日と32日に残草量を無処理区と比較し除草効果を算出

防除目安

心形葉2葉期まで



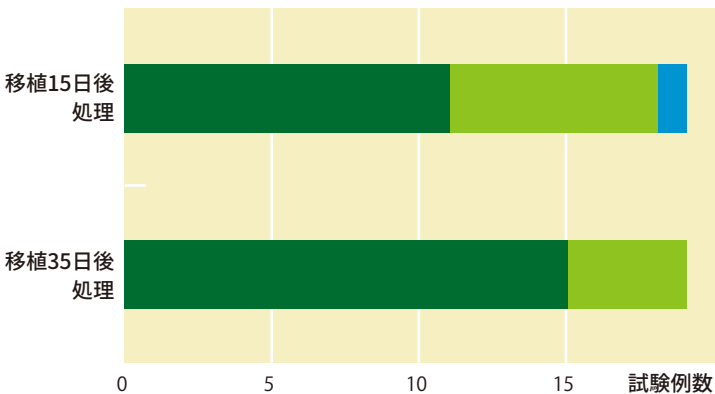
## 殺草経過事例



◎殺草経過事例の写真は、試験データとは異なる試験で撮影されたものです。

## 水稲に対する安全性

初期剤との体系で移植後15日または35日にウィードコア1キロ粒剤を湛水処理したところ、移植後15日処理の1例において小程度の薬害が認められましたが、その他は収量に影響を及ぼす薬害は認められませんでした。

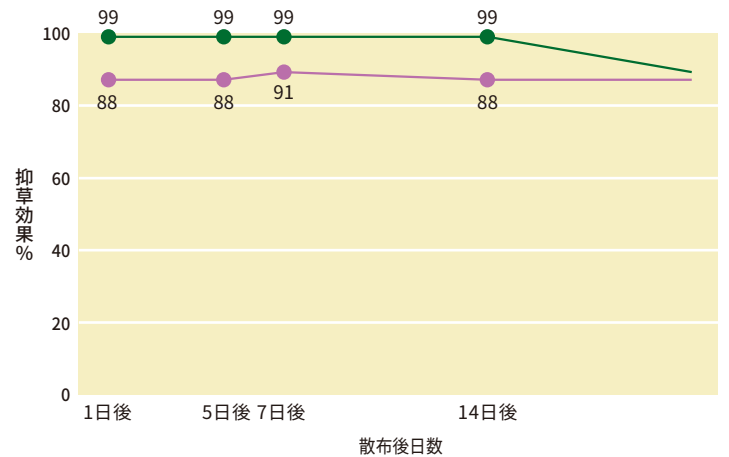


2015～2016年（公財）日本植物調節剤研究協会  
 15日後のイネの葉齢は3.5から8葉期試験結果38例を集計

- 無:薬害なし
- 微:害徴が認められるが回復する
- 小:害徴が認められ、減収率5%以下と推定される

## 残効性

ウィードコア1キロ粒剤はノビエに対して21日の残効を示した。



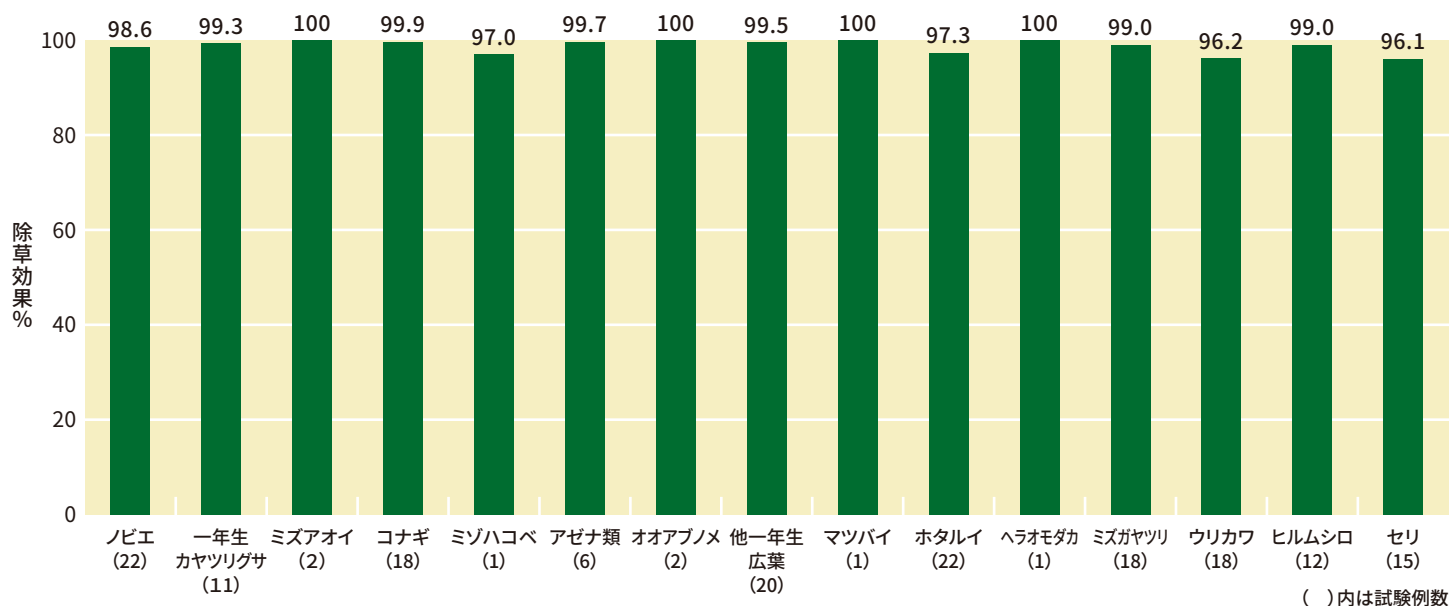
2019年（公財）日本植物調節剤研究協会 茨城  
 処理：湛水散布  
 調査：薬剤処理後、経時的にノビエの催芽種子を土壌表面に播種し、播種20日後に残草量を調査して抑草効果を求めた。

- ウィードコア1キロ粒剤
- F剤



## 各種雑草への効果

ノビエ4葉期処理において、様々な雑草種に高い効果を示しました。



2015～2018年（公財）日本植物調節剤研究協会委託試験22例を集計  
処理時期：ノビエ4葉期

## 各種雑草効果確認事例

水田の様々な雑草に防除効果を確認しています。(カッコ内は事例がある葉齢と草丈)

### 一年生雑草



ノビエ(4葉期まで)



コナギ(心形葉2葉)



ミズアオイ(心形葉2葉)



アゼナ類(3対)



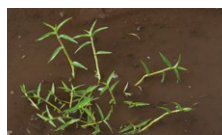
ヒメミソハギ類(20cm)



タカサブロウ(20cm)



ヒレタゴボウ(10cm)



イボクサ(40cm)



クサネム(30cm)



オオアブノメ(2.5対)

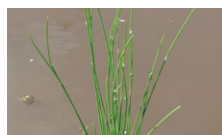


アゼガヤ(10cm)

### 多年生雑草



マツバイ(増殖期)



ホタルイ(4葉期)



ヘラオモダカ(4葉期)



ミズガヤツリ(5葉期)



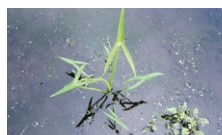
ウリカワ(5葉期)



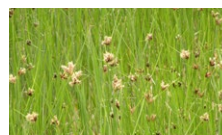
ヒルムシロ(発生盛期)



セリ(増殖期)



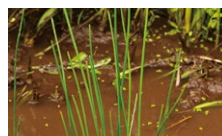
オモダカ(30cm)



コウキヤガラ(20cm)



シズイ(20cm)



クログワイ(20cm)

## 適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アールあたり使用量	総使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	本剤：2回以内 フロルピラウキシフェンベンジル：3回以内 ペノキスラム：2回以内 ベンゾピシクロン：3回以内	湛水散布または 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草及び ホタルイ、ウリカワ、 ミズガヤツリ、セリ、 ヒルムシロ	稲3葉期～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで			

## 使用時期の目安(移植水稲)



■初期剤または一発処理剤との体系で使用してください。

## 使用上の注意

- 使用量にあわせ秤量し、使いきってください。
- 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意してください。クログワイは草丈20cmまで。コウキヤガラは草丈20cmまで。シズイは草丈20cmまで。ホタルイは4葉期まで。マツバイは増殖期まで。ミズガヤツリは5葉期まで。オモダカは草丈30cmまで。ウリカワは4葉期まで。ヘラオモダカは4葉期まで。セリは再生盛期まで。ヒルムシロは発生盛期まで。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布してください。
- 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行ってください。
- 散布に当たっては、水深3～5cmの湛水状態で面に均一に散布してください。水の出入りを止めて、少なくとも3～5日間はそのままの湛水状態を保ち、面を露出させないように注意してください。散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、止水期間中の入水は静かに行ってください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
  - ①散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
  - ②散布に当たっては散布機種種に適合した散布装置を使用してください。
  - ③事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整してください。
  - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布してください。
  - ⑤水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。
- 散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけてください。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
  - ①砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
  - ②軟弱な苗を移植した水田
  - ③極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田

### ④稲の根が露出している水田

- 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけてください。
- 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意してください。いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 薬害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意してください。
- 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないでください。
- 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

## 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意してください。
- 直射日光を避け、食品と区別してなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

製造販売

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

〒100-6110 東京都千代田区永田町2丁目11番1号

山王パークタワー

<https://www.corteva.jp/>



取扱

本資料は2021年3月現在の知見に基づき、作成されています。